

来週の「売り物記事」はこれ

2018年4月20日号

毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

熊本地震で新生児を救った

「空飛ぶNICU」空輸作戦

22日（日）



2016年4月の熊本地震から2年。熊本市民病院のNICU（新生児集中治療室）には当時、18人の赤ちゃんが入院していましたが、治療室の機能はダメージを受けました。その時、140*離れた鹿児島市立病院から平川英司医師（38）を乗せたドクターヘリが駆けつけます。ヘリ専用開発された新生児保育器を乗せた「空飛ぶNICU」です。2日間で8人の赤ちゃんを救出、熊本県外の医療機関に搬送しました。小さな命を守ろうとした平川さんたちの、あの日の活動を追います。



筆者は東京社会部多摩総局の黒川将光記者です。

「同世代よ 脱ノンポリを」

三遊亭円楽さんが斬る世相 夕刊特集ワイド 24日（火）



「お笑い」には政治や世相を斬る力がある。ならば、あの落語家はどう社会を見ているのだろう。人気長寿番組「笑点」（日本テレビ系）でレギュラーを40年務める三遊亭円楽さん（68）＝写真。「腹黒」キャラと、芸を極めた噺（はなし）にファンは多い。さあ、師匠出番ですー。

企画「生誕150年 横山大観展から」

朝刊1面 25日（水）から

東京・竹橋の東京国立近代美術館で開催中の「生誕150年 横山大観展」。明治、大正、昭和と三つの時代を生きた近代日本画の巨匠の代表作を網羅し、それぞれの時代を振り返る大回顧展です。

企画では、同美術館の鶴見香織・主任研究員が、5回にわたり展示作品を紹介します。初回は「白衣観音」＝写真。「決して『うまい』画家ではない」大観。この作品もデザインが狂っていると指摘しますが、顔立ちや表情が印象的で、大観作品の魅力は「『うまい』とは別のところにある」と語っています。また夕刊でも、作品を見た著名人による「大観を語る」を連載します。



セクハラ対策の「あるべき姿」 くらしナビA面 25日（水）



テレビ朝日の女性社員に対するセクハラ疑惑で辞任を表明した財務省の福田淳一事務次官。マスメディアに限らず、働く女性が上司や同僚、取引先によるセクハラ被害に遭った時、いったいどう行動すればいいのでしょうか。一方で、セクハラをしない、させない環境を作るために、雇用主はどんな対策を取るべきなのでしょうか。その「あるべき姿」を追求します。

連載「消えない傷」反響特集

くらしナビA面 26日(木)、27日(金)

「魂の殺人」ともいわれる性的虐待の被害に遭った子どもたちの実像を伝えた連載「消えない傷 性的虐待に遭って」(2月21日から計5回)は、大きな反響を呼びました。今も苦しみを抱えているけれど、「前」を見て生きていきたい——。今回の特集は、被害者から寄せられた体験談と、虐待を受けた時の子ども向けの注意点をお伝えします。



「トラガール」同乗ルポ



サラダぼうる

B面 23日(月)



トラック業界の人手不足に伴い、新たな担い手として女性ドライバーの存在感が増しています。国土交通省は、そんな彼女たちを「トラガール」と命名しました。それでも業界で女性が占める割合は、まだ2・4%にとどまっています。愛知県豊橋市の30代シングルマザーのトラックに男性記者が同乗させてもらい、現場から報告します。

大相撲の「女人禁制」

守るべき伝統か、変えるべきしきたりか

オピニオン面 [論点] 27日(金)

大相撲の土俵における「女人禁制」が論議を呼んでいます。京都府舞鶴市であった春巡業の際、土俵上で倒れた男性市長の救命措置に当たった女性に「土俵から下りてください」と求めた場内アナウンスが問題になりました。「女性を土俵に上げてはならない」との大相撲の決め事は尊重すべき伝統でしょうか、それとも変革が必要なしきたりなのでしょうか。



時代が見える——。オピニオン面にご期待ください。

代替わりへ～平成あと1年

総合面 25日(水)から

来年4月30日の天皇陛下の退位まで、今月末で1年となります。退位による皇位継承は約200年ぶりです。国民の象徴として戦没者の慰霊や被災地訪問などを続けてきた天皇陛下の最近の活動や次の天皇となる皇太子さま、皇嗣となる秋篠宮さまを巡る現状は——。新元号や代替わりに伴う儀式の準備を進める政府の動きとともに紹介します。